令和７年度第１回宗像市男女共同参画推進懇話会　議事録

日時：令和７年６月６日（金）１０時００分～１１時１０分
場所：宗像市役所　本館　２階　２０２会議室
出席者　（敬称略、五十音順）

委員	出欠	委員	出欠	委員	出欠
石橋　文恵	○	石山　さゆり	○	魚住　由佳理	欠
岡山　元生	○	小森　雅子	欠	藤谷　明美	○
水田　尚文	○	山田　雄三	○		

事務局出席者：廣渡、飯野、三浦

○委員
●事務局

１　はじめのあいさつ

宗像市男女共同参画推進懇話会　会長　石山さゆり

２　新任委員の紹介【資料１】

福岡保健福祉環境事務所の戸畑典子委員が人事異動により退任され、新たに岡山元生委員に就任いただいた。

３　議事録署名人選出

議事録署名人　：　藤谷委員

４　議事

（１）令和７年度スケジュールについて【資料２】

●【資料２】に沿って、スケジュールや意見書作成の流れについて事務局から説明。これまでの懇話会からの意見を踏まえ、次年度以降の事業に反映していけるよう、本年度は早めに意見書を作成していただきたい。予定としては、意見書案を８月に予定している第２回懇話会で提示・協議のうえ、完成していただきたい。完成した意見書を担当課へ提示し、その後の状況の把握・報告ができればと考えている。第４次プランについては、本日正式に諮問を行い、次回以降、体系図や骨子を含めた具体的な審議に入っていく。

（２）令和６年度実施状況（重点項目）及び評価について【資料３～５】

●【資料４】に沿って、担当課及び男女課の評価について事務局から説明。

①基本目標１「地域・社会活動における男女共同参画」

●地域での意識啓発の推進（事業番号１）について、審議会への女性委員の登用率が令和５年度と比較して下がっている。審議会の委員は、役職で指定されているものが多く、女性の選出を依頼しているものの、登用が難しい現状がある。また、地域の女性登用の推進について、コミュニティ運営協議会役員の女性比率は令和５年度と比較して上がっている。

●地域活動におけるリーダーの発掘・養成・活用（事業番号２）について、コミュニティ運営協議会役員研修会、自治会長合同研修会の実施回数は令和５年度と同様であるが、

今後自治会長になっていくような方も含めて参加できるかたちにし、複数の役員が参加した。

●男女共同参画の視点による防災活動の推進（事業番号４）について、避難所運営においては、テントを更衣室用に２種類準備したり、高齢者や子連れ家庭のために別室を設けたりするなど、男女という視点も含め、さまざまな事情を抱える人に配慮した取り組みを行っている。

●今後の取組、課題としては、地域の女性役員登用の推進や地域リーダー育成の働きかけを行うにあたり、それぞれの地域の実情に沿った取り組みが必要である。コミュニティ運営協議会や自治会の業務負担の軽減に向けて検討や取り組みを進める予定であると担当課から聞き取っている。

●事務局評価については、Ｂ（ある程度達成しているが、一部課題が残る）である。

②基本目標２「働く場における女性の活躍推進」

●起業を含めた自分らしい働き方・生き方について考える、女性のための将来設計セミナーや個別相談を年２回実施した。また、宗像市リカレント教育支援事業補助金を創設し、資格取得から就職につなげる支援の充実を図った。

●事業所への啓発促進（事業番号６）について、令和６年度は従業員２０人以上３０人未満の事業所４１か所を訪問。令和５年度から市内事業所の従業員数を段階的に分けて訪問し、制度の周知を図っている。

●女性起業家等の育成・支援（事業番号１０）について、宗像市商工会やFabbit 宗像と連携し、創業セミナーや伴走型の創業支援プログラム、個別相談を実施した。

●今後の取組、課題としては、引き続き事業者訪問や講座を実施し、職場における性別役割分担意識の解消と、女性の活躍推進に向けた啓発に取り組む。また、ホームページやSNS を活用し、多様な世代への情報発信に取り組んでいく。

●事務局評価については、Ａ（達成できている）である。

③基本目標３「ワーク・ライフ・バランスの推進」

●男性の家庭参画の促進（事業番号１４）について、子育て支援センターの利用者数のうち、父親の数が令和５年度の２３３人から令和６年度３７８人に増加した。

●子育て支援事業と相談事業の充実（事業番号１５）について、赤ちゃん訪問時に父親が育児休業を取得していて在宅しているケースが多くみられたことや、「パートナーにも講座の内容を聞いてほしかった」といった過去の参加者からの声があったことも踏まえ、たまご学級の家族同伴可能なコース数を増設するなどの工夫を行っている。

●子育て環境の整備、充実（事業番号１６）について、令和６年度より病児保育の送迎サービスを開始し、保育サービスのさらなる充実を図った。令和７年４月１日時点での待機児童数は０となっている。

●今後の取組、課題としては、たまご学級などの相談機会を活用しながら、引き続き家庭参画の意識向上に取り組んでいく。

●事務局評価については、Ａ（達成できている）である。

④基本目標４「誰もが安全安心に暮らせる社会づくり」

●ＤＶ等の防止に向けた取り組みと啓発活動の実施（事業番号１８）について、東郷駅や神湊ターミナル、海の道むなかた館にて、デジタルサイネージ（電子広告）を用いた啓

発を行った。利用者が待ち時間に、無意識のうちに目に入る形での広報を行うことで、関心や気づきを促すよう工夫した。

●相談窓口・相談事業の周知（事業番号２１）について、ＤＶ相談窓口の周知度目標を８０%に設定しているが、令和６年度の市民アンケートの結果では６２%であった。男性の認知度を上げるなど、今後はターゲットを意識し啓発していくことが重要であると考えている。

●今後の取組、課題としては、ＳＮＳの活用などを通じて、より効果的な啓発手法を検討していく必要がある。

●事務局評価については、Ａ（達成できている）である。

⑤基本目標５「男女共同参画社会の実現に向けた啓発」

●出産前教育の充実（事業番号３８）について、父親を対象に父子手帳の交付を行っている。男女共同参画推進課でも「はじめてパパの育児ガイド」を作成し、父子手帳とともに配布を依頼している。

●さまざまな媒体を通した情報提供（事業番号４１）について、「男女共同参画」という言葉を知っている市民の割合の目標を８０%に設定しているが、令和６年度の市民アンケートでは５１%と、令和５年度より少し下がっている。

●今後の取組、課題としては、講座の録画配信を増やす、多様な媒体を活用した情報発信を行うなど取り組んでいく。

●事務局評価については、Ａ（達成できている）である。

●実施状況の報告について、不明点がある場合、「質問シート」により確認してもらえるとよい。提出された質問とその回答は他の委員にも共有するため、内容を確認のうえ、「評価シート」を提出いただきたい。

○審議会の登用率について、選出団体が男女共同参画の視点を持って委員を選出しているか、その認識を確認してはどうか。ただお願いするだけでなく、なぜその視点が重要なのか、目的まできちんと伝えることが重要である。

○登用が増えていない原因など、全体の構造が見えていなければ、依頼をしても選出団体側にとって対応が難しい面があると思う。

●登用率については、役職を指定して参加していただく委員も含めて算出せざるを得ない。それ以外の部分において、市民公募などを通じて女性をどの程度取り入れられているか、また男女比率が同程度になっているかといった点を見ていく必要があると考えている。こうした視点を踏まえ、次期プランに向けては、評価の出し方や働きかけの方法について検討する。

○児童虐待の相談窓口はどこになるのか。

●市役所内の部署でいうと、子ども家庭センターが相談窓口となっている。

○評価のつけ方に課題がある。次期プランでは、指標の設定方法を見直し、社会情勢に左右されることなく、自分たちの取り組みで変化をもたらせる数値や目標を設定することが重要である。

●意見書の作成について、例年通り会長を中心に行い、事務局で取りまとめた後、会長、副会長と調整したうえで、第２回懇話会前に委員へメールにて内容確認を依頼する予定

である。

（３）【諮問】第４次宗像市男女共同参画プランについて

●石山会長へ諮問書を交付。

●第４次プランは第３次プランの趣旨を継承しつつ、国および県の動向を踏まえたうえで策定を進める。

●「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に基づく市町村計画は、第４次プランの中に包含するかたちで策定する。

●令和５年度の意見書の内容も踏まえ、本来の目的がどの程度達成できているかを検証する観点から、評価項目の見直しも行う。毎年継続して評価できるものと、中長期的に経過を見るべきものとを整理しながら検討する。

議事録署名人　　宗像市男女共同参画推進懇話会　委員

藤谷明美